

まごろ 自分のキャラクター の で行こう！ カルテ

千葉県医師会理事 森本 浩司 医師



最近、**現代風のキャラクター** であろうとするあまり逆に生きにくくなっている人のことが気になります。

例えば「まじめ」という言葉があります。この言葉に対する現代風のコメントは「だからだめなんだよ」でしょうか。また「仕事」に対するそれは「べつに、さぼってもいいじゃない？」でしょうか。しかし、まじめな人や仕事をさぼらない人の方が、実際には社会から受け入れられるのです。昨今の**“現代風”** は、現実の社会とはうまく噛み合わないことが多いような気がしてなりません。

実際に経験した例を挙げます。ある時私の診療所へ通う若い会社員の方から、自分はまじめだからうつ病になるのでしょうか、と質問されたことがあります。“現代風”に考えるとそうなるのでしょうか。しかし、「まじめ」が悪いものではありません。まじめさをうまく生かすさえすれば問題はないのです。また、先日ある小学校の先生から「うちの子は本ばかり読んでいて、暗くて、暗くて、どうしたらよいのでしょうか」という相談を受けた話をお聞きしました。もちろん保護者の心配は他にもあるのですが、少なくとも本が好きだということを否定的にとらえる感覚は間違っているといえるでしょう。

私は、患者さん達の中に“現代風”について行けず悩んでいる人を時々見かけます。もちろん、自分自身を社会に合わせる努力は必要です。しかし、“現代風”に縛られるあまりかえってうまく行かなかったり自分らしく生きられなかつたりする場合もあると思うのです。特に気になるのは子供への“現代風”の押しつけです。「いつも仲間と一緒にいてスポーツをする」現代風に言えば明るく元気な子供も、「一人で本ばかり読んでいる」現代風に言えば暗くて大人しい子供も、どちらも成長しようとしているその子供なりの姿なのです。“現代風”に流されず、**自分のキャラクターを大切に**するべきだと思います。